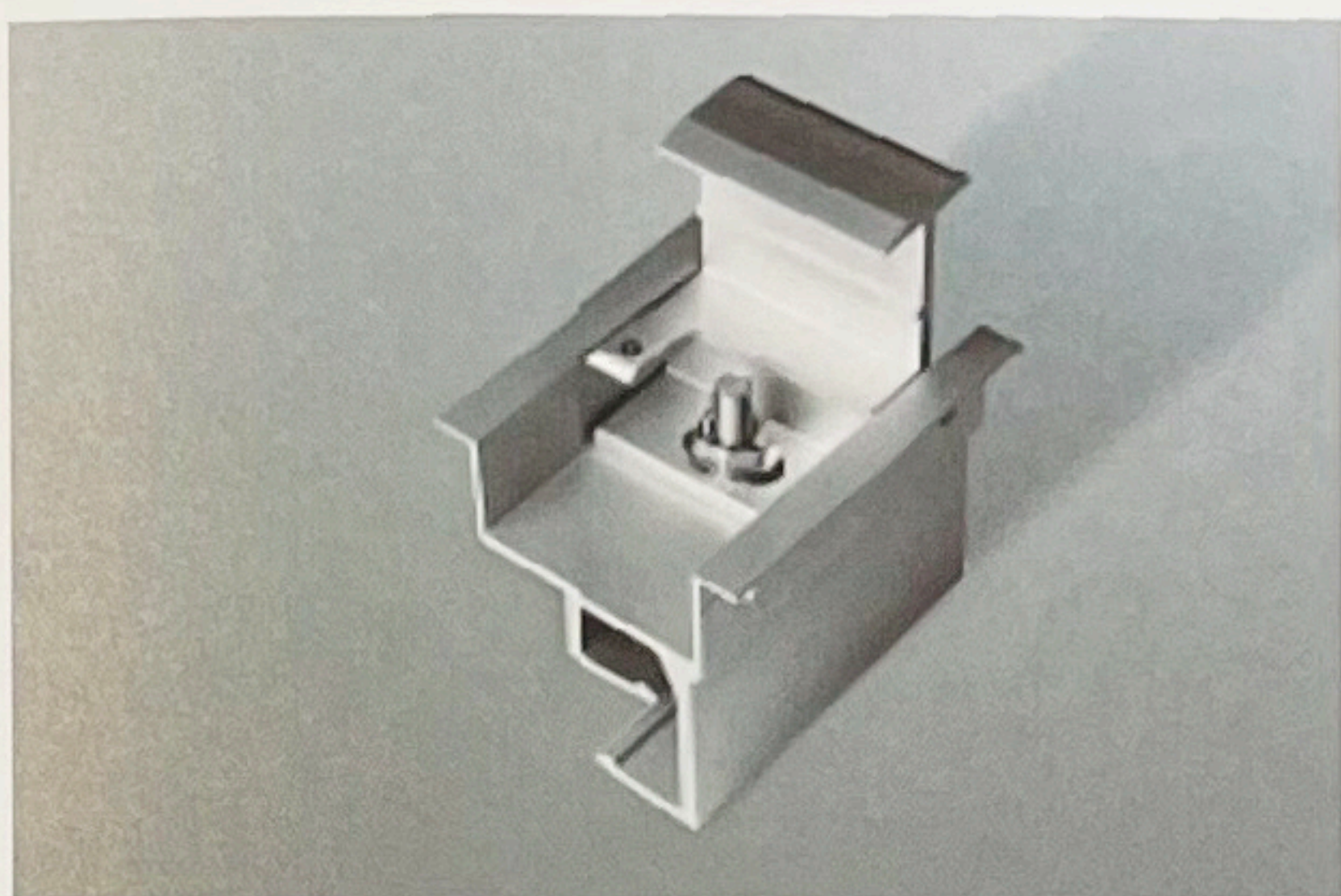


新型太陽光パネル架台を住宅用にも展開 従来品より施工時間半減

「SMAC AL Z」

製品特長

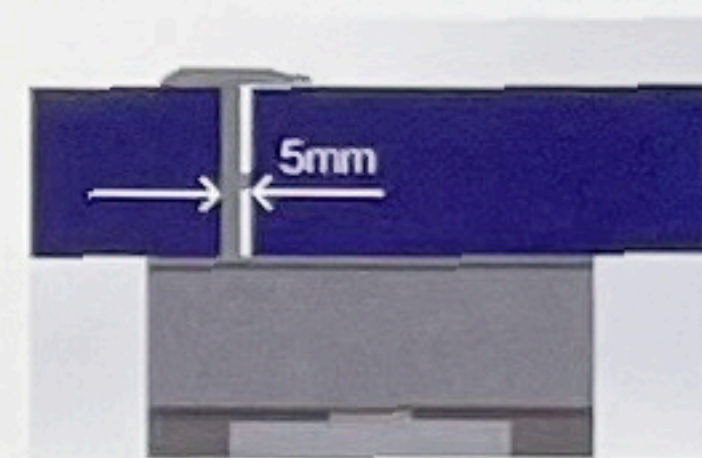


ボルト一本でハゼ締め、モジュール固定、アース取りが可能

組み立て状態で
納品のため
ピッキングミスを防止



モジュール間ピッチが
わずか 5mm
最大限の設置数を実現可能



太陽光パネル用架台メーカーの動力(鈴木竜宏社長)は、設置対象となる屋根が広く、1本のボルトで固定が可能な新型架台を8月に発売する。これにより、従来2本必要だったボルトを1本で済ませることができ、施工の手間を低減し、施工時間も最大で半分まで短縮可能になるという。

同社が開発した新架台「SMAC AL Z」は、もともと産業用に出荷していた「SMAC AL」を住宅用にも対応できるよう改良した製品で素材にアルミを採用することで軽量化を実現しているのが特徴だ。また、ハゼ掴み部の形状により、従来では設置が難しかった勘合式立平屋根にも対応可能となった。これにより、屋根材ごとの選定が不要となり、設置可能な範囲が大きく広がる。

さらに、Z構造押え金具の開発によりアースの導通ルートをモジュール同士で取るよう改善し、屋根への負担を軽減する設計としている。同製品は、ボルトを締めるだけでハゼ固定、モジュール固定、前後間のアース施工が一度に完了する一発施工が可能となっている。開発デザイン課の岸本正輝課長は「金具選定にかかる時間が大幅に削減され、施工ミスの防止にもつ

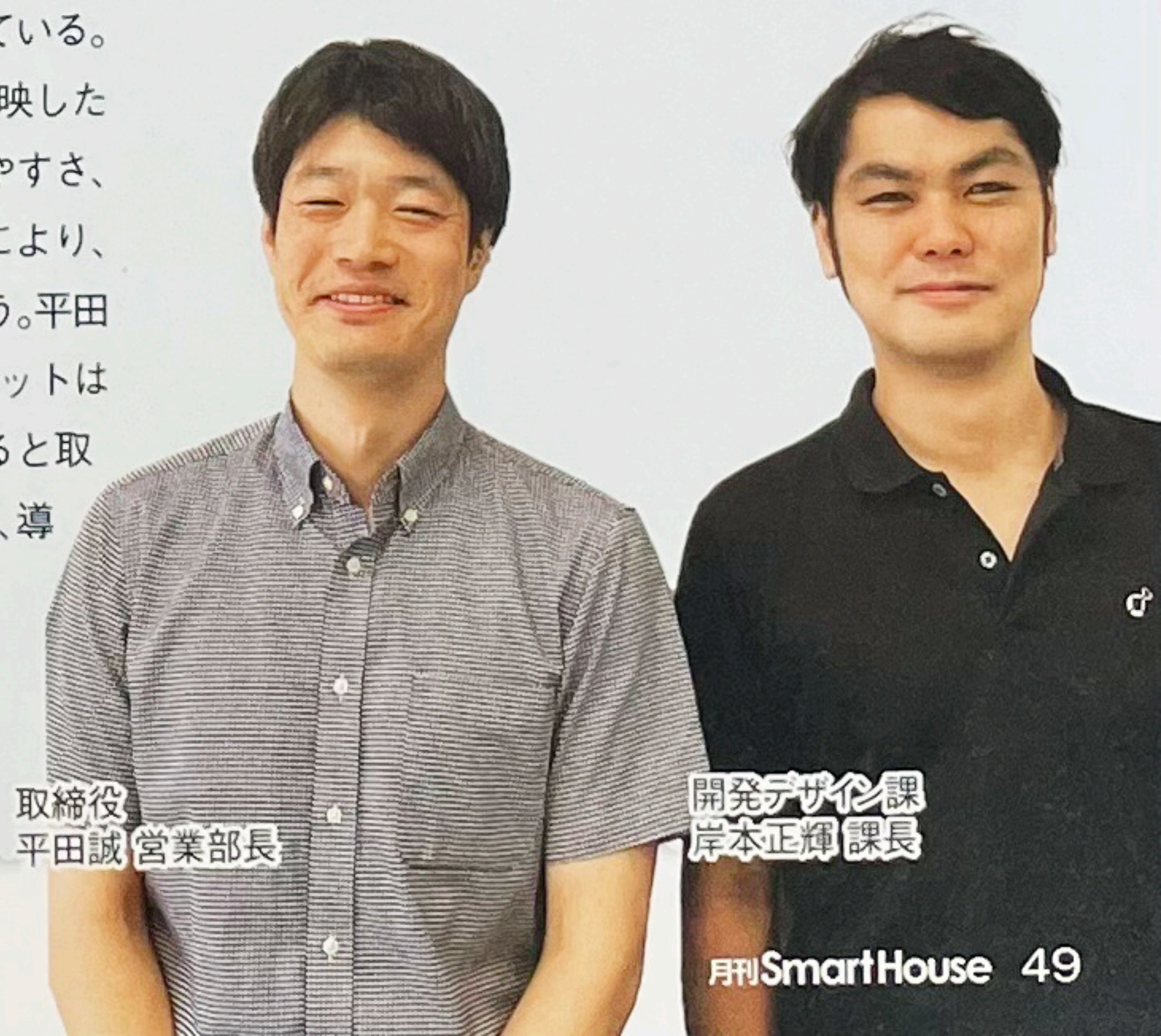
ながる」とその利点を強調する。加えて「モジュール間のピッチを5mmと狭く設計しており、あと1枚モジュールを載せたいといった場合にも対応しやすい仕様となっている」とした。

さらに、端部と中間部で共通の金具を使用することで、部材ごとの取り違いや不足といった施工現場で起こりがちなミスも回避可能だ。岸本課長は「一式で納品されるため、現場での部材確認に時間をかける必要がない。施工会社からはミスが大幅に減ったとの声もいただいている」と話す。同社では新架台をあらかじめ組み合わせた状態で納品するため、事前の組み立て作業が不要となる。同社取締役平田誠営業部長は「当社も実際に工事を手がけており、現場での課題や時間のかかる工程を熟知している。その経験を活かして、より現場の声を反映した製品に仕上げた」と説明する。施工のしやすさ、ミスの少なさ、準備不要といった特長により、施工時間の大幅短縮が可能となるという。平田営業部長は「住宅用では時間短縮のメリットはそこまで顕著ではないが、産業用になると取り付ける金具の数が大幅に増えるため、導入効果が非常に大きい」としている。

新架台が住宅にも対応可能となっ

たことで、平田営業部長は「販路が大きく広がった。工務店やハウスメーカーとつながりがあるため、新築住宅への提案を強化していきたい」と意欲を見せる。加えて、「既築住宅の太陽光パネルの交換時にも積極的に提案していく」としている。

今後について平田営業部長は「住宅市場への対応により、より幅広い市場の獲得を目指す」としたうえで「太陽光発電は国も導入を推進しており、今後も拡大が見込まれる。太陽光発電が住宅のオプションではなく、住宅設備の一部として認識されるよう、普及の担い手となっていきたい」と展望を語った。



取締役
平田誠 営業部長

開発デザイン課
岸本正輝 課長